

月刊 やちまなこ

2014.9.15 発行

No. 202

9 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原散歩

塘路湖エコミュージアムセンターに隣接する遊歩道が8日、開通した。湖沿いを歩きながら、四季折々の自然や動植物、復元した縄文時代の竪穴住居、ドラム缶橋跡など、600メートルのコースには説明パネルを設置し、塘路の自然や歴史について紹介している。また、近くにはフィトンチッドの森遊歩道もあり、併せて利用できる。



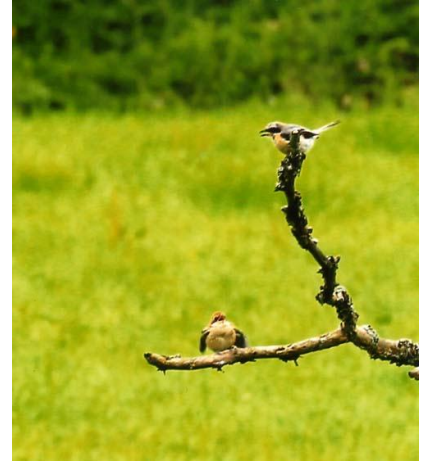
コッタロ川と湿原のほとりから

171 9月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

暑さ知らずの夏が逝き、主役の座を「秋」にすっかり明け渡されて、コッタロでは涼やかさを通り越し肌寒さを感じ“雲の峰失せし継ぎ目の無いみそら”に万象澄み渡る健やかさが感じられたのも束の間、雨また雨の昨今、このまま秋の長雨へと突入しないか案じられてなりません。

さて、山や湿原での子育てがほぼ完了した夏鳥達は渡りの準備たけなわか?と思いきや、アオジと百舌が巣立ったばかりのヒナに給餌しているではありませんか。写真は枯木の下枝で全身をブルブルさせ乍ら上枝に止まって呼びかける親にエサのおねだりをしている仔百舌の何とも微笑ましい仕草です。思えばとっくに姿を消したカッコウとツツドリにひょっとすると托卵され、二度目の営巣だったのではないのでしょうか。これとは対照的に仔ガラスのモンジロウが、けたたましい“エサくれコール”を連発していて、ハシボソガラスも子育てをやり直したことがわかりました。



一方、水辺に目をやれば、コッタロ第1, 第2の両川で8月下旬から始まっていたヤマベの産卵が続いており、春さきに観たイトウと遜色のない真っ赤な婚姻食で背ビレを水面上に立てて、浅い川床を泳ぎ廻っております。又、庭のツル池にはこの時季珍しく山蟬♀が飛来して“キャッ!、キャッ!”と独特の力強い“見てくれコール”を発しており、台所の窓越しにパチリ。このシンプルなツートンカラーの美しい彼女をとくと御覧下さいませ。

ところで、孵化後100日目を2日過ぎて丹頂の第2コツ&タロの19, 20羽目の幼鳥等は、飛べるようになったことが嬉しくてたまらないらしく、エサ場への往復を休むことなく連日繰り返しているのに加え、今度は我等にも共に飛ぶよう促し、翼を広げては、何度も何度もはばたき方を教えてくれるのですが、人間ですものそれは無理、と云っても解ってもらえないので、精一杯両手両足をヒラヒラさせて、バレリーナもどきを演じてやると、向こうの草地へ舞い降りてめでたしめでたし。そこでこちらは“丹頂の背なで空飛ぶ秋の夢”



湿原の住人たち その162

コムラサキ

写真は、8月上旬に塘路湖岸の地面で羽を広げていたコムラサキの雄です。“小形の紫色に光るタテハチョウ”を意味する和名の通り、国蝶のオオムラサキより小形で、雄の表ばねは、光の当たる角度によって紫色が現れます。雌は、雄と同じ紋様ですが、紫色が浮かび上がることはありません。7月中旬から8月下旬にかけて、塘路湖岸や新設された遊歩道沿い、ときには獣糞の上でみかけます。幼虫の姿で冬を越し、各種のヤナギ類の葉を食べて成長します。来年の夏の晴れた日には、ぜひ、コムラサキに会いにきてください。



芸術の秋を楽しむ

6日、自然ふれあい行事「針穴写真講座」を開催しました。空き箱と直径0.2ミリの穴を開けたアルミ板を使ったシンプルなカメラで、中に印画紙を入れて撮影準備が完了。講師から撮影時の注意点を聞いたあと、センター周辺で撮影をしました。当日は久々の晴天でしたが、露出時間は約1分前後で、はたして写るのか不安に感じていたようでしたが、撮影後暗室に入り、現像液に印画紙を浸けると、ゆっくりと画像が現れた瞬間、参加者はびっくり。これはネガになるので、これから新しい印画紙に重ね焼きをして画像を反転させ、再び現像処理をして写真に仕上げました。手間はかかりましたが、デジタル写真とは異なる独特な写真表現を体験しました。



講師の伊藤さんから説明を受ける参加者。



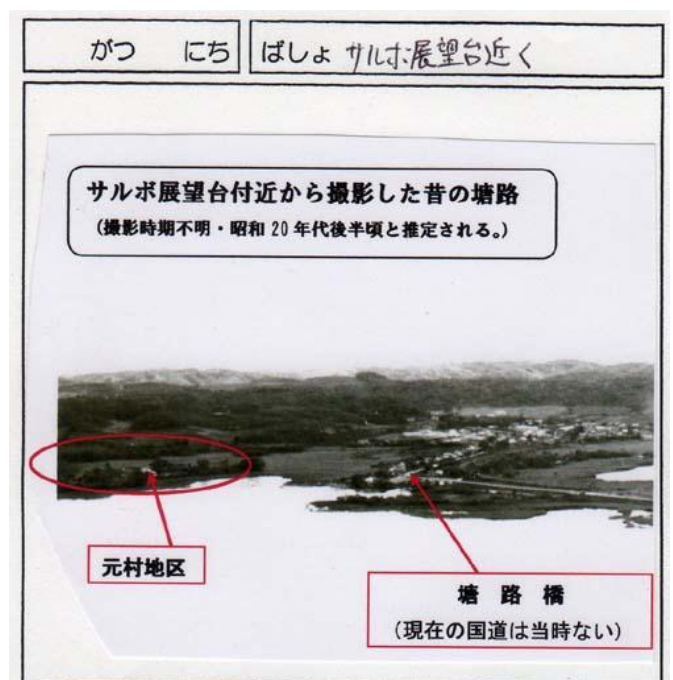
構図を決めて、いざ撮影。

つぼっちの塘路周辺うろうろ日記 Vol.76 「かつての塘路元村は・・・？」

あるこっとや郷土館のある元村地区に、新しい遊歩道が出来ました。湖岸側を歩くこの遊歩道からは、湖に暮らす生き物を観察する事が出来ます。また歴史が古い元村地区ならではの、縄文文化やアイヌ文化に関する解説看板も設置されました。

現在の元村は樹木が林立し草木深い場所ですが、実は昔の元村地区は畑地として使われていました。その頃は湖畔沿いにしか樹木は無く、多くは開けた草原だったのです。昭和30年前後頃は、現在の塘路橋（丹頂ドライブインなどがある近くの橋）から元村方向を見ると、郷土館奥にあった塘路地区の旧墓地が見えたそうです。なおその頃の墓地は土葬もまだ多く、当時を知る人からは「元村の方を見ると、時おり墓地に燐が飛んで光っていたので、人魂かと驚いた」なんてお話を聞きました。

坪岡 始（標茶町郷土館学芸員）



10月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

蜜ろうそくを作ろう

[日時] 10/18 (土) 13:00~15:00
[定員・参加料] 8名、700円(材料費)
[場所] 塘路湖エコミュージアムセンター
[持ち物] エプロン

バードカービング講座 1 回目 (全 5 回)

[日時] 10/19 (日) 10:00~15:00
[定員・参加料] 15名、4,500円(材料費)
[場所] 塘路湖エコミュージアムセンター
[持ち物] エプロン、筆記具、定規、昼食
[対象] 全5回参加可能な中学生以上

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ 申し込み問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで TEL 015-487-3003

秋の湿原ハイク

[日時] 10/19 (日) 10:00~12:00

 申し込み問い合わせは 温根内ビジターセンターまで TEL 0154-65-2323

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(8/16) ミミコウモリ、カラハナソウ、サワギキョウ、ヤマブドウの実、ナガボノシロワレモコウ (8/25) ヤマハハコ、シラヤマギク、オトコエシ、イヌエンジュの実、マイヅルソウの実、ノブキ、ミヤマヤブタバコ (9/1) ハッカ、ゲンノショウコ (9/12) エゾリンドウ、カンボクの実、マユミの実、ハナガサギク、オオハンゴンソウ、ハンゴンソウ、ホザキシモツケ、クサフジ、ツリガネニンジン、サラシナショウマ、エゾトリカブト (9/14) ミゾソバ、アキノウナギツカミ、タニタデ、エゾオオヤマハコベ、キクイモ、チドリケマン、キツリフネ、クサノオウ、コウライテンナンショウの実、ネムロブシダマの実

【鳥】(8/30)カワセミ. アオジ. アオサギ (9/3)ハヤブサ. キバシリ. カワラヒワ (9/6)ヒシクイ約20羽. マガモ. オジロワシ (9/13)ハクセキレイ. タンチョウの親子. アカゲラ. コゲラ. キジバト (9/14)シマエナガ. アオジの幼鳥

【その他】(8/25)ウラギンヒョウモン、ミドリヒョウモン、ルリボシヤンマ、マユタテアカネ (8/30)アカマダラ
(8/31)エゾシカ、コエゾトンボ (9/1)やぶ蚊 (9/5)エゾタヌキの死骸 (9/8)カブトムシ (9/9)キタキツネ
(9/13)エルタテハ (9/14)キトンボ

- 一日の気温差が大きくなってきました。湿原観光の際は、上着を一枚多めに用意した方がよいでしょう。
- スズメバチの活動が盛んな時期なので、散策時は黒色以外の長袖長ズボン、帽子を着用しましょう。遭遇しても慌てずに、じっとしてハチが通り過ぎるのを待つか、ゆっくりその場から立ち去りましょう。
- ◆日出・日入時間 9/15(5:01, 17:34)・9/30(5:18, 17:07)・10/14(5:34, 16:43)



実りの秋 ヤマブドウ

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこつと

☎088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail: emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00～17:00 (11月～3月は16:00まで)

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料